様式3

高松市公の施設指定管理者導入施設に対する評価

評価対象期間：令和7年4月1日～令和8年3月31日

施設名	高松市道の駅源平の里むれ

指定管理者	株式会社四国にぎわいネットワーク	施設所管課等	観光交流課
指定期間	令和4年4月1日～令和9年3月31日（5年間）	公募・非公募の別	公募
所在地	香川県高松市牟礼町原631－7	業務の概要	施設の維持管理・運営業務 ・物産棟(物販販売、産直市、食堂、産直カフェ) ・無料休憩所 ・情報センター ・駐車場
施設の概要	【施設】木造平屋 【職員の状況】正社員　5名　パート従業員　30名 【開館時間】9時～17時 【定休日】第1・3水曜日		

	項目名	令和7年度	令和6年度	項目名	令和7年度	令和6年度
利用状況等	利用者数	245,755　人	247,414　人			
収支状況等	指定管理料	8,380　千円	9,040　千円	支出実績（税込）	125,772　千円	122,268　千円
	収入実勢総額（税込）	125,353　千円	123,488　千円			
	うち事業収入	116,973　千円	114,448　千円			

評価基準	評価項目	指定管理者自己評価コメント	所管課等評価
1　基本事項	①法令上必要な知識等、安全対策、危機管理 ②-1個人情報の保護・情報公開 ②-2環境への配慮	高松市道の駅源平の里むれ条例をはじめとする関係法令に基づき、適正な施設の維持管理・運営を行った。食品衛生管理、防犯指導、防災研修及び避難訓練を定期的に実施し、従業員の安全意識及び危機管理意識の向上に努めた。また、個人情報については、関係法令及び内部規程に基づき適正に管理した。駐車場の管理では、マナー違反の利用者が増加し、安全管理上の課題となっているが、巡回や注意喚起を行うなど、指定管理者として適切な安全管理に努めた。 環境への配慮として、「高松市地球にやさしいオフィス・店」に登録し、その取組方針に沿って、レジ袋持参の呼びかけ、節電・節水の推進、ごみの分別の徹底及び環境に配慮した商品の活用など、環境負荷の低減に取り組んだ。	A
2　住民の平等な利用確保	①管理運営、施設事業との関連性 ②平等な利用の確保	高松市が示す管理基準については、その都度ご指導をいただきながら適正な管理運営に努めた。施設の設置目的に沿い、地域住民や高松市民はもとより、市外からの利用者も含め、誰もが安心して利用できる道の駅となるよう、公平・公正な運営を行った。また、施設利用や利用者対応については、特定の利用者を優先することなく、平等な利用機会の確保に努めた。	A
3　施設の効用の最大限の発揮	①利用促進対策 ②広報・PR対策 ③企画事業・自主事業 ④市・関係団体・地域等との連携 ⑤サービス向上の取組 ⑥相談・苦情への対応	施設の強みを最大限に発揮し、「地元の魅力発信」「ふるさとの再発見」「地域で活躍する人や企業との連携」を基本方針として、地域資源を活用した事業を積極的に展開し、地域振興と利用者サービスの向上を図り、施設の効用を最大限に発揮するよう努めた。 恒例行事として定着した「地ビールまつり」「七タメロン」「水戸納豆まつり」「産直アート」「ピンクリボン月間」等のイベントを今年度も開催するとともに、地域資源を活用した企画や新商品の開発に積極的に取り組んだ。特に、香川県産果実を使用した道の駅オリジナルアイスバー「香宝」シリーズを発売し、地元生産者や加工事業者と連携した新たな商品開発を行うなど、地域の魅力発信と利用促進につなげた。また、オリジナル商品「さぬきうどんの香湯」は多くのメディアで紹介され、全国への情報発信と施設の認知度向上につながった。 さらに、さぬき讃シリーズ登録店として年2回のイベントを開催し、香川県産農産物の販売や食堂・産直カフェでの限定メニューの提供を通じて、県産食材の魅力を発信した。利用者から寄せられた相談や苦情については、一件一件真摯かつ迅速に対応し、サービスの向上に努めた。	A
4　管理を安定して行うための人員及び財政基盤の確保	①職員確保計画等 ②教育・研修 ③就業規則等の遵守 ④施設運営の健全性の確保（経営状況の確認を含む） ⑤損害保険等 ⑥収支計画と執行管理	継続雇用を基本とし、従業員の定着及び能力向上を図るため、定期的な研修や社長面談等を実施し、接客・衛生管理・業務スキルの向上に努めた。また、就業規則等に基づく適正な労務管理を行い、働きやすい職場環境の整備に取り組んだ。 一方で、全国的な人手不足の影響により欠員補充が困難な状況が続いており、厳しい人員体制の中での施設運営となった。また、最低賃金の大幅な引き上げに加え、人件費や各種経費の増加が経営面に大きな影響を及ぼしているが、効率的な人員配置や経費管理に努め、安定した施設運営の維持に取り組んだ。 損害保険については、施設規模や事業内容に応じた適切な補償内容で継続加入し、事故等へのリスク管理を行った。収支については、原材料費、商品仕入価格、運送費、消耗品費等の継続的な上昇という厳しい経営環境の中、収支状況の把握と適切な執行管理に努め、黒字決算を確保した。	A
5　管理に係る経費の縮減	①収入の確保・適正な人件費 ②運営経費の節減対策・コミュニティビジネスの視点 ③経営の効率化 ④合理的な会計制度	人員不足による厳しい運営体制の中でも、適正な人員配置と業務効率化に努め、人件費の適切な管理を行った。一方で、最低賃金の大幅な引き上げにより、人材確保や新人・ベテラン、正社員・パート従業員間の賃金バランスの維持について課題が生じているが、安定した雇用環境の確保と効率的な運営の両立に努めた。 運営経費については、原材料費、仕入価格、光熱費、消耗品費等の上昇や、想定外の修繕費の発生により厳しい状況が続いた。その中でも、仕入内容の見直し、在庫管理の徹底、日々の業務改善など、継続的なコスト削減に取り組んだ。 また、地元農産物や地域資源を活用した商品開発・販売、生産者や地域事業者との連携による取組を推進し、収益確保と地域活性化の両立を図るなど、コミュニティビジネスの推進に努めた。 会計制度については、関係法令及び会計基準に基づき適正に処理するとともに、収支状況を把握しながら効率的かつ健全な経営管理に努めた。	A

総合評価コメント	総合評価
施設の管理条例や関連法令各種マニュアルを遵守し、安全管理など、施設管理は適切に行われている。また、食品衛生管理・防犯指導・防災研修・避難訓練など各種研修を行い、従業員一人一人の意識の向上、管理運営に取り組んでいる。施設の設置目的に沿い、地域住民や市外からの利用者も含め、誰もが安心して利用できる道の駅となるよう、公平・公正な運営を行っていることは高く評価できる。また、地域資源を活用した事業を積極的に展開し、地域振興と利用者サービスの向上を図り、地元生産者や加工事業者と連携した新たな商品開発を行うなど、施設利用促進のために意欲的な取組ができている。引き続き、地域資源を活用した企画や新商品の開発に努め、利用者の促進に努めていただきたい。 管理経費についても、仕入内容の見直し、在庫管理の徹底、日々の業務改善など、継続的なコスト削減へ取り組まれている。今後も、更なる経営の効率化とともに、安心安全に利用できる施設運営ができるようより一層、努力を重ねていただきたい。	A